

### 中神琴溪 医案③

京師室町夷川上る街帯屋 庄五郎なる者、常に悪寒を患うる事有年、世間、袷物など着る頃は、はや綿入を着、冬月は必ず密室に入り、爐火を暫くも離れず、頭巾を被る。衆療附劑を以てして驗なし。予に請う。予様々と利害を説き、得と曉して、折しも寒中なりけるが毎夜灌水の術を行う事廿日斗にして、常人よりは反て温かになりて、其の後は冬月も躡さへはかぬ事になりたり